生産届出書（別記様式第１号）

「当該農産物を栽培する本圃への播種または定植を行う前」までに、届出書を市町に提出する

「安心！広島ブランド」特別栽培農産物認証生産届出書

令和○○年４月２日

広島県西部農林水産事務所長様

住　所　○○市○○○○○
氏　名　○○　○○

法人・団体用

（又は団体の所在地
団体の名称
代表者氏名）

「安心！広島ブランド」特別栽培農産物認証要領の４の規定により、次のとおり届け出ます。

地域慣行レベルの品目名を記載する

届け出対象期間は、前作収穫終了後から、当該作収穫調製までの期間とする
無耕作期間がある場合は、本作の作業（草刈や耕起）を開始した時期からとする

野菜等で２回転させる場合は、延べ面積も併記する
例)2.52a(1.26a×2 回)
小数点第 2 位まで記載すること

品目名（品種名）	いね(ｺｼﾋｶﾘ)	作型等	—	栽培面積	100.20ａ
届け出対象期間	令和○○年９月　～　令和○○年１０月				
地域慣行レベル策定地方公共団体(※1)	①広島県　②市町（市町名：　　）				

生　産　者	住所	広島市○○○	氏名	○○○○	電話番号	○○○−○○○○
栽培責任者	住所	広島市●●●	氏名	●●●●	電話番号	●●●−●●●●
確認責任者	住所	広島市■■■	氏名	■■■■	電話番号	■■■−■■■■
精米責任者(※2)	住所	広島市□□□	氏名	□□□□	電話番号	□□□−□□□□
精米確認者(※2)	住所	広島市▲▲▲	氏名	▲▲▲▲	電話番号	▲▲▲−▲▲▲▲

	節減対象農薬使用回数（回）※3	化学肥料使用量（窒素成分kg/10ａ）※3
地域慣行レベル	２１　回	８kg／10a
栽培計画	９　回	１．８kg／10a
受領確認欄	令和○○年３月 20 日	確認責任者氏名 ■■■■

化学肥料及び節減対象農薬の使用前までに、栽培計画書の内容を確認責任者に確認してもらい、日付と氏名を記入してもらう

生産者が複数の場合は、別紙にまとめる

使用予定の節減対象農薬の成分回数を記載する

使用予定の化学肥料の窒素成分量を記載する

精米する場合のみ記載する
複数の米穀店に出荷し、各店舗で精米する場合は、精米する店舗ごとに精米責任者及び精米確認者を記載する（書き切れない場合は、別紙にまとめる）

特別栽培計画書（別記様式第２号）

特別栽培（計画・管理記録）書（中途分・完了分）

生産者名		栽培責任者名		確認責任者名		現地確認※３	現地確認（予定・実績）
住所	○○市○○○	住所	○○市●●●	住所	○○市■■■	ほ場確認	令和○○年　３月２０日
氏名	○○○○	氏名	●●●●	氏名	■■■■	管理状況確認	令和○○年　８月（上旬・　日）
TEL	○○－○○－○○○○	TEL	●●－●●－●●●●	TEL	…	収穫状況確認	令和○○年　９月（中旬・　日）
						受領確認欄（申請・実績時）	令和　　年　　月　　日　…責任者氏名

ほ場番号（ほ場所在地）※１	作業計画（実績） 作業等名 ※２	作業時期 ※３	施肥…等 名　称（化学合成窒素成分量(%)）	使用量 (kg/10a)	化学合成窒素量 (kg/10a)	使用時期 ※３	名　称（有効成分名称）	有効成分数	使用量・希釈倍数	使用時期 ※３
別紙	前作収穫終了	○○.9.15								
	堆肥散布	○○.11.5	牛糞堆肥	1000	0	○○.11.5				
	土壌改良剤　散布	○○.12.8	ミネラルＧ	200	0	○○.12.8				
	耕起	○○.3 下								
	種子消毒	○○.4 上					ﾃｸﾘｰﾄﾞCﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1	200 倍	○○.4 上
	播種	○○.4 中					(ｲﾌﾟｺﾅｿﾞｰﾙ・銅水和剤)			
	代かき	○○.4 中								
品目名（品種名）	除草剤散布	○○.4 中					ｴﾘｼﾞｬﾝ乳剤	1	300ml/10a	○○.4 中
いね（コシヒカリ）							(ﾌﾟﾚﾁﾗｸﾛｰﾙ)			
	田植、施肥	○○.5 上	こだわり米有機基肥	30	1.2	○○.5 上	ｵﾘｾﾞﾒｰﾄﾌﾟﾘﾝｽ	2	50g/箱	○○.5 上
			(無機態窒素 4%)				(ﾌｨﾌﾟﾛﾆﾙ・ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ)			
作型等名	除草剤散布	○○.5 中					ｲｯﾃﾂﾌﾛｱﾌﾞﾙ	3	500ml/10a	○○.5 中
—							(ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ・ｶﾌｪﾝｽﾄﾛｰﾙ・			
	穂肥散布	○○.7 上	こだわり米有機穂肥	20	0.6	○○.7 上	ﾍﾞﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ)			
			(無機態窒素 3%)							
	出穂期防除	○○.8 下					ｱﾐｽﾀｰﾄﾚﾎﾞﾝ SE	2	300 倍、25ℓ/10a	○○.8 上
栽培面積	収穫	○○.9 中					(ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ・			
a 100.20							ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ)			
合計(のべ使用回数)	計　画				1.8kg/10a			9 回		
	実　績				kg/10 a			回		
	最終見込				kg/10a			回		

注　　ほ場毎に作成すること。**（作業計画、使用予定資材が同一の場合はまとめて作成することも可とする。）**

※１　ほ場所在地は地番まで記入し、ほ場番号を記載した「生産ほ場位置図」を添付すること。※２　作業等名は、「前作収穫終了」「耕起」「は種」「定植」「除草」「病害虫防除」「収穫」等、必要な作業等名を記入する。※３　現地確認、作業時期及び使用時期は、今後の予定は「年月旬」で記入し、実績は「年月日」で記入すること。

「計画」を囲む

生産届出書の記載と同じであるか確認する

ほ場確認日は受領確認日より以前の日付とする（同日も可）

化学合成窒素成分量とは、肥料中の無機態窒素成分量(%)を記載。（※有機態は含めない）

終了した作業は日付まで記載

生産届出書及び特別栽培計画書の内容を確認してもらい、日付を記入、記名する。（生産届出日と同日かそれ以前）

パンフレットやメーカー聞き取りなどにより、化学合成（無機態）窒素量を記載

農薬名を記載し、カッコ書きで有効成分名を記載

・小数点第２位を切り上げる
・切り上げた結果、慣行レベルの５割を上回る場合は、小数点第２位まで記載する

慣行レベルの５割減以上であること

・使用量、希釈倍率及び使用時期が、農薬容器等の記載内容に反していないこと
・重複する農薬や成分が、当該農薬や成分の使用上限回数を超えていないこと（誤使用を防止）

（参考）複数ほ場や複数生産者の場合

別紙

【生産者が１人の場合】

ほ場番号	ほ場所在地	栽培面積（ａ）
1	広島市○○○○１２３４	50.00
2	広島市○○○○４３２１	50.00
合計		100.00

生産ほ場の位置が判る地図を添付する

【生産者が複数の場合】

生産者	ほ場番号	ほ場所在地	栽培面積（ａ）
●▲　○■	1	広島市○○○○１２３４	50.00
	2	広島市○○○○４３２１	50.00
	小計		100.00
△○　■○	1	広島市○○○○５６７	40.00
	2	広島市○○○○７６５	50.00
	小計		90.00
●□　○△	1	広島市○○○○１２６５	50.00
	2	広島市○○○○６５２１	60.00
	3	広島市○○○○５６１２	70.00
	小計		180.00
△□　◆○	1	広島市○○○○５８９	60.00
	2	広島市○○○○９８５	20.00
	小計		80.00
合計			450.00

生産ほ場の位置が判る地図を添付する

（参考）生産部会等のグループの取組み

同一の栽培暦（栽培方法）で生産している産地や生産部会等のグループにおいて、栽培計画書の作業計画や使用予定資材が記載された栽培暦がある場合は、栽培暦を添付することで、栽培計画書の記載を簡素化できます。

（参考）複数回転の作付け、ほ場ごとに作付時期をずらす場合

複数回の作付けを行う場合や、作付時期をずらす場合、確認責任者等が円滑に現地確認できるよう、ほ場ごとの作付計画を追加してください。

＜例　非結球レタス４．５アール栽培＞
2993（1.5a）は３回転、2992（1.5a）と 2991-2（1.5a）は２回転
⇒延べ合計 10.5 アールの作付け

【必要な書類】

①生産届＋栽培計画＋ほ場位置図 ＋ ②ほ場ごとの作付計画が分かる資料

ほ場番号		2993	2992	2991-2
面　積		1.5a	1.5a	1.5a
品　目		非結球レタス	非結球レタス	非結球レタス
H25 1月	上旬			
	中旬			
	下旬	前作収穫終了		
2月	上旬			
	中旬			
	下旬	耕起・堆肥等散布		
3月	上旬			
	中旬	播種		
	下旬			
4月	上旬	定植		
	中旬			
	下旬			
5月	上旬			
	中旬	収穫開始		
	下旬	↓		
6月	上旬	収穫終了		
	中旬			
	下旬			前作収穫終了
7月	上旬	耕起・堆肥等散布		
	中旬	播種		耕起・堆肥等散布
	下旬	定植		
8月	上旬			播種
	中旬			定植
	下旬	収穫開始		
9月	上旬	↓		収穫開始
	中旬	収穫終了		↓
	下旬			↓
10月	上旬		前作収穫終了	収穫終了
	中旬			
	下旬		耕起・堆肥等散布	
11月	上旬			
	中旬		播種	
	下旬		定植	
12月	上旬			
	中旬		収穫開始	
	下旬	耕起・堆肥等散布	↓	
1月	上旬	播種	↓	
	中旬		↓	
	下旬	定植	収穫終了	
2月	上旬			
	中旬			
	下旬		耕起・堆肥等散布	
3月	上旬	収穫開始	播種	耕起・堆肥等散布
	中旬	↓		播種
	下旬	収穫終了	定植	
4月	上旬			定植
	中旬			
	下旬			
5月	上旬		収穫開始	
	中旬		↓	
	下旬		収穫終了	
6月	上旬			収穫開始
	中旬			↓
	下旬			収穫終了

収穫１回目

収穫２回目

収穫３回目

収穫１回目

収穫１回目

収穫２回目

収穫２回目

認証申請書（別記様式第３号）

当該農産物の収穫開始 14 日前までに申請する
※提出が早すぎないよう、最終使用資材の確定時期を目安とする

「安心！広島ブランド」特別栽培農産物認証申請書

令和○○年８月１５日

広　島　県　知　事　様

住　所　○○市○○○○○
氏　名　○○　○○
法人・団体用（又は団体の所在地／団体の名称／代表者氏名）

「安心！広島ブランド」認証要綱第４条の規定により、認証を申請します。

県から受理通知された日付、受理番号を記載する

生産届出時のほ場と変更がないか確認する

生産届受理年月日	令和○○年４月５日		受理番号	特栽（○○）○○－001	
品目名(品種名)	いね(コシヒカリ)	作型等	―	栽培面積	100.20ａ

		節減対象農薬使用回数（回）	化学肥料使用量（窒素成分kg/10ａ）
地域慣行レベル		２１回	８kg／１０a
栽培計画		９回	１．８kg／１０a
栽培実績	現時点	７回	１．８kg／１０a
	栽培完了時見込	９回	１．８kg／１０a

・野菜（トマト、きゅうり等）の場合、収穫期間が長期にわたるため、作期途中（認証申請時点）の農薬成分使用回数等を、「現時点」の欄に記載する

・「栽培完了時見込」の欄は、栽培歴により、農薬の使用上限回数、化学肥料の施用上限量（窒素成分）を記載する（※５割を超えると認証できない）

※収穫期間の終盤に、仮に上限を上回った場合は、それ以降の収穫物は「特別栽培農産物」ではなく、「慣行栽培農産物」として販売することになる

特別栽培管理記録書（別記様式第２号）

「管理記録」、「中途分」を囲む

管理状況確認日は、定植から収穫２週間前までの期間内の日付とし、受領確認日より以前の日付とする（同日も可）

栽培管理記録書（中途分）の内容を確認責任者に確認してもらい、現地確認（管理状況）と併せて、日付を記入する。

生産届出時の栽培管理計画で修正箇所があった場合は、適切に修正していること

特別栽培（計画・管理記録）書（中途分・完了分）

生産者名		栽培責任者名		確認責任者名		現地確認※	現地確認（予定・実績）欄
住所	○○市○○○	住所	○○市●●●	住所	○○市■■■	ほ場確認	令和○○年　３月２０日
氏名	○○○○	氏名	●●●●			管理状況確認	令和○○年　８月　７日
						収穫状況確認	令和○○年　９月中旬
TEL	000-000-0000	TEL	●●●-●●●-●●●●			受領確認欄（申請・実績時）	令和○○年　８月１５日 確認責任者氏名　■■■

化学合成窒素成分量とは、肥料中の無機態窒素成分量(%)を記載。（※有機態は含めない）

認証申請書及び栽培管理記録書（中途分）の内容を確認してもらい、日付を記入、記名する。（認証申請日と同日かそれ以前）

ほ場番号（ほ場所在地）※１	作業計画（実績）		使用資材							
			施肥・土づくり等							
	作業等名 ※２	作業時期 ※３	名称（化学合成窒素成分量(%)）	施用量 (kg/10a)	化学合成窒素量 (kg/10a)	使用時期 ※３	名称（有効成分名称）	成分数	希釈倍数	※３
別紙	前作収穫終了	○○.9.15								
	堆肥散布	○○.11.5	牛糞堆肥	1000	0	○○.11.5				
	土壌改良剤　散布	○○.12.8	ミネラルG	200	0	○○.12.8				
	耕起	○○.3.25								
	種子消毒	○○.4.5					ﾃｸﾘｰﾄﾞCﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1	200倍	○○.4.5
	播種	○○.4.11					(ｲﾌﾟｺﾅｿﾞｰﾙ・銅水和剤)			
	代かき	○○.4.15								
品目名（品種名）	除草剤散布	○○.4.15					ｴﾘｼﾞｬﾝ乳剤	1	300ml/10a	○○.4.15
いね（コシヒカリ）							(ﾌﾟﾚﾁﾗｸﾛｰﾙ)			
	田植、施肥	○○.5.1	こだわり米有機基肥	30	1.2	○○.5.1	ｵﾘｾﾞﾒｰﾄﾌﾟﾘﾝｽ	2	50g/箱	○○.5.1
			(無機態窒素4%)				(ﾌｨﾌﾟﾛﾆﾙ・ﾌﾞﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ)			
作型等名	除草剤散布	○○.5.15					ｲｯﾃﾂﾌﾛｱﾌﾞﾙ	3	500ml/10a	○○.5.15
							(ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ・ｶﾌｪﾝｽﾄﾛｰﾙ・			
—	穂肥散布	○○.7.15	こだわり米有機穂肥	20	0.6	○○.7.15	ﾍﾞﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ)			
			(無機態窒素3%)							
	出穂期防除	○○.8.下					ｱﾐｽﾀｰﾄﾚﾎﾞﾝSE	2	300倍、250/10a	○○.8.下
栽培面積	収穫	○○.9中					(ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ・			
a 100.20							ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ)			
合計(のべ使用回数)	計　画				1.8kg/10a			9		
	実　績				1.8kg/10a			7		
	最終見込				1.8kg/10a			9		

作業が数日かかった場合は、「○○.4.10～○○.4.13」のように作業期間を記載する

実績は確認責任者の受領確認日までに使用した回数の合計を記載する

慣行レベルの５割減以上であること

・使用量、希釈倍率及び使用時期が、農薬容器等の記載内容に反していないこと
・重複する農薬や成分が、当該農薬や成分の使用上限回数を超えいないこと（誤使用を防止）

注　ほ場毎に作成すること。（作業計画、使用予定資材が同一の場合はまとめて作成することも可とする。）

※１　ほ場所在地は地番まで記入し、ほ場番号を記載した「生産ほ場位置図」を添付すること。※２　作業等名は、「前作収穫終了」「耕起」「は種」「定植」「除草」「病害虫防除」「収穫」等、必要な作業等名を記入する。※３　現地確認、作業時期及び使用時期は、今後の予定は「年月旬」で記入し、実績は「年月日」で記入すること。

「ガイドラインによる表示」

農林水産省新ガイドラインによる表示

特　　別　　栽　　培　　米

節減対象農薬：当地比５割減
化学肥料（窒素成分）：当地比７割減

栽培責任者　●●●●
所在地　　広島県広島市●●●●
連絡先　　●●●－●●●－●●●●

確認責任者　■■■■
所在地　　広島県広島市■■■■
連絡先　　■■■－■■■－■■■■

精米確認者　▲▲▲▲
所在地　　広島県広島市▲▲▲▲
連絡先　　▲▲▲－▲▲▲－▲▲▲▲

栽培責任者等の氏名、所在地、連絡先に間違いがないか確認する

玄米で出荷する場合は、精米確認者の記載は不要

出荷方法が、玄米と精米どちらもある場合は、表示方法を２種類作成すること

精米確認者が複数いる場合は、それぞれ作成すること

節減対象農薬の使用状況		
使用資材名	用途	使用回数
イプコナゾール	殺菌	１回
プレチラクロール	除草	１回
フィプロニル	殺虫	１回
プロベナゾール	殺菌	１回
イマゾスルフロン	除草	１回
カフェンストロール	除草	１回
ベンゾビシクロン	除草	１回
エトフェンプロックス	殺虫	１回
アゾキシストロビン	殺菌	１回

用途は、登録農薬情報等を参考に記載する

④販売ＰＲ票

「安心！広島ブランド」認証制度（特別栽培農産物）ＰＲに係る調査票

品目	申請者（認証予定者） (連絡先)	販売店 （所在地・電話番号）	販売開始時期～ 販売終了(予定)時期	ホームページへの 販売店の掲載	備考
いね （コシヒカリ）	●●　●● ○○市○○○○ Tel　(082) ○○○-○○○○	①自宅販売 ○○市○○○○ Tel　(082) ○○○-○○○○ URL　http://www.●●.jp ②道の駅「●●」 ○○市○○○○ Tel　(082) ○○○-○○○○ ③スーパー▲▲　□□店 ○○市○○○○ Tel　(082) ○○○-○○○○	令和○年１０月上旬 ～ 令和○年１２月下旬	☑希望する □希望しない	

生産者自身が、ホームページでPRしている場合やネット販売を行っている場合は、アドレスも併せて県ホームページでPRします

販売期間の**開始時期**と**終了予定時期**が判るよう、記載する

いずれかに「レ」のチェックを入れてください

【調査及び調査票の提出について】
　調査票はホームページへの掲載希望の有無にかかわらず、原則として提出してください。
【記入についての留意事項】
①申請者（認証予定者）欄については、氏名（法人・団体名及び代表者名）、住所及び電話番号を記入してください。
②販売店欄については、販売店名、所在地及び電話番号を記入してください。ただし、販売店数が多く、全店舗の記入が困難な場合は主な店舗を記入してください。（その旨、備考欄に記入してください。）
③変更があれば、随時ご連絡ください。
【その他】
　提出された情報のうち、ホームページへの販売店の掲載を希望しない場合は、認証日、申請者（認証予定者）住所及び農地の属する市町、氏名（法人・団体名）及び品目を掲載します。

（参考）使用資材が異なる生産者が、グループで認証申請する場合（※米を除く）

生産者が同一の栽培責任者のもと、グループで認証申請する場合において、使用資材が異なる農産物を混合して、同一の包装形態で販売するケースが考えられます。

消費者は、農産物に使用された資材の内容について正確な情報を求めていることから、節減対象農薬の使用状況の欄には、当該包装内の複数の農産物に使用された全ての資材について網羅的に表示する必要があります。

また、同一の資材が各農産物に異なる回数（農薬の場合）使用されている場合には、消費者の優良誤認を避けるため、当該資材の使用回数の欄には、使用回数が最大であるものの回数を記載することが原則になります。

＜記載例１＞

地域慣行レベルが１０回の場合

生産者ごとの実際の使用回数

使用資材名	使用回数		
	生産方法 a	生産方法 b	生産方法 c
A	1	2	1
B	1		
C	1	1	1
D		1	1
計	3	4	3

各資材の最大使用回数を表示

農産物への表示

節減対象農薬の使用状況		
使用資材名	用途	使用回数
A	殺菌	2
B	殺虫	1
C	殺虫	1
D	除草	1

・生産者ごとの使用回数は、最大で「４」であるが、農産物への表示は、「５」になる
・この使用回数「５」が地域慣行レベルの５割以下であれば、認証農産物として販売できる

＜記載例２＞

地域慣行レベルが１０回の場合

生産者ごとの実際の使用回数

使用資材名	使用回数		
	生産方法 a	生産方法 b	生産方法 c
A	3	2	1
B	1		
C	1	2	1
D		1	1
計	5	5	3

各資材の最大使用回数を表示

農産物への表示

節減対象農薬の使用状況		
使用資材名	用途	使用回数
A	殺菌	3
B	殺虫	1
C	殺虫	2
D	除草	1

・生産者ごとの使用回数は、最大で「５」で、全員が特別栽培農産物の生産方法であるが、農産物への表示では「７」となり、地域慣行レベルの５割を超えるため、認証農産物として販売できないことになる
・このため、次のページの記載方法に改める必要がある

地域慣行レベル１０回の場合

生産者ごとの実際の使用回数

使用資材名	使用回数		
	生産方法ａ	生産方法ｂ	生産方法ｃ
A	3	2	1
B	1		
C	1	2	1
D		1	1
計	5	5	3

個々の生産方法の使用回数を表示

農産物への表示

節減対象農薬の使用状況				
使用資材名	用途	使用回数		
A	殺菌	3	2	1
B	殺虫	1		
C	殺虫	1	2	1
D	除草		1	1

※使用された農薬の異なる上記３種類の○○（農産物名）が混合しています。

すべての生産方法の使用回数を表示し、複数の種類（生産方法）の認証農産物が混合している旨を明記する

＜記載例３＞

記載例２に準じて記載すべきところであるが、生産者が多数いて、包装資材等にすべてを表記することができない場合、次のような表示方法があります。

農林水産省新ガイドラインによる表示
特　別　栽　培　米

節減対象農薬：当地比５割減
化学肥料（窒素成分）：当地比５割減

栽培責任者　●●●●
所在地　広島県広島市●●●●
連絡先　●●●－●●●－●●●●
確認責任者　■■■■
所在地　広島県広島市■■■■
連絡先　■■■－■■■－■■■■
精米確認者　▲▲▲▲
所在地　広島県広島市▲▲▲▲
連絡先　▲▲▲－▲▲▲－▲▲▲▲

節減対象農薬の使用状況
ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．●●．ｃｏ．ｊｐ／

農薬の使用状況を、容器、包装又は票片の一括表示の枠外に表示できない場合、消費者が必要に応じて確認できるホームページのアドレス等情報入手の方法を、一括表示の枠内に掲載する

ホームページ

節減対象農薬の使用状況				
使用資材名	用途	使用回数		
A	殺菌	3	2	1
B	殺虫	1		
C	殺虫	1	2	1
D	除草		1	1

※使用された農薬の異なる上記３種類の○○（農産物名）が混合しています。

「節減対象農薬の使用状況」をホームページに掲載する

実績報告書（別記様式第４号）

・当該作の出荷終了後３０日を経過する日までに提出
・ただし、特別栽培米は、とう精施設における精米・出荷終了後に、速やかに提出する

「安心！広島ブランド」特別栽培農産物実績報告書

令和○○年１１月１０日

広　島　県　知　事　様

住　所　○○市○○○○○
氏　名　○○　○○
法人・団体用（又は団体の所在地／団体の名称／代表者氏名）

「安心！広島ブランド」認証要綱第９条の規定により、実績を報告します。

県から認証通知された日付、認証番号を記載する

認証年月日	令和○○年９月１５日		認証番号	特栽○○－００１	
品目名(品種名)	いね(ｺｼﾋｶﾘ)	作型等	―	栽培面積	100.20ａ
栽培期間	令和○○年９月　～　令和○○年９月				

	節減対象農薬使用回数（回）	化学肥料使用量（窒素成分kg/10ａ）
地域慣行レベル	２１回	８kg／１０a
認証申請時	９回	１．８kg／１０a
栽培実績	９回	１．８kg／１０a
出荷期間	令和○○年９月　～　令和○○年１１月	
収穫量	５、０００kg	
出荷量	４、４００kg	

(注)生産者等が複数の場合は、別途一覧表を作成することでも可とする。

使用した節減対象農薬と化学肥料の最終実績を記載する

認証申請時（認証申請書中の「現時点」）で使用した節減対象農薬と化学肥料の最終実績を記載する

添付資料
栽培管理記録書（完了分）（別記様式第
出荷記録書（別記様式第５号）
特別栽培米受払台帳（別記様式第６号）：精米販売の場合

特別栽培管理記録書（別記様式第２号）

特別栽培（計画・管理記録）書（中途分・完了分）

栽培管理記録書（完了分）の内容を確認責任者に確認してもらい、現地確認（収穫状況）と併せて、日付を記入する。

生産者名		栽培責任者名		確認責任者名		現地確認※３	現地確認（予定・実績）欄
住所	○○市○○○	住所	●●市●●●	住所	■■市■■■	ほ場確認	令和○○年　３月２０日
氏名	○○○○	氏名	●●●	氏名	■■■■	管理状況確認	令和○○年　８月　７日
						収穫状況確認	令和○○年　９月２０日
TEL	000-000-0000	TEL	●-●	TEL	■■■-■■■-■■■■	受領確認欄（申請・実績時）	令和○○年　９月２０日 確認責任者氏名　■■■■

「管理記録」、「完了分」を囲む

実績報告書及び栽培管理記録書（完了分）の内容を確認してもらい、日付を記入、記名する。（実績報告書提出日と同日かそれ以前）

ほ場番号（ほ場所在地）※１	作業計画（実績）		施肥・土づくり等				使用資材			
	作業等名※２	作業時期※３	名　称（化学合成窒素成分量(%)）	施用量(kg/10a)	化学合成窒素量(kg/10a)	使用[illegible]	名　称（有効成分名称）	成分数	希釈倍数	※３
別紙	前作収穫終了	○○.9.15								
	堆肥散布	○○.11.5	牛糞堆肥	1000						
	土壌改良剤　散布	○○.12.8	ミネラル G	200		○○.12.8				
	耕起	○○.3.25								
	種子消毒	○○.4.5					ﾃｸﾘｰﾄﾞ C ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1	200 倍	○○.4.5
	播種	○○.4.11					(ｲﾌﾟｺﾅｿﾞｰﾙ・銅水和剤)			
	代かき	○○.4.15								
品目名（品種名）	除草剤散布	○○.4.15					ｴﾘｼﾞｬﾝ乳剤	1	300ml/10a	○○.4.15
いね（コシヒカリ）							(ﾌﾟﾚﾁﾗｸﾛｰﾙ)			
	田植、施肥	○○.5.1	こだわり米有機基肥	30	1.2	○○.5.1	ｵﾘｾﾞﾒｰﾄﾌﾟﾘﾝｽ	2	50g/箱	○○.5.1
			(無機態窒素 4%)				(ﾌｨﾌﾟﾛﾆﾙ・ﾌﾞﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ)			
作型等名	除草剤散布	○○.5.15					ｲｯﾃﾂﾌﾛｱﾌﾞﾙ	3	500ml/10a	○○.5.15
							(ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ・ｶﾌｪﾝｽﾄﾛｰﾙ・			
—	穂肥散布	○○.7.15	こだわり米有機穂肥	20	0.6	○○.7.15	ﾍﾞﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ)			
			(無機態窒素 3%)							
	出穂期防除	○○.8.17					ｱﾐｽﾀｰﾄﾚﾎﾞﾝ SE	2	300 倍、25ℓ/10a	○○.8.17
栽培面積	稲刈	○○.9.12					(ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ・			
a		～9.20					ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ)			
100.20										
合計(のべ使用回数)	計　画				1.8ｋg/10ａ			9		
	実　績				1.8ｋg/10ａ			9		
	最終見込				1.8ｋg/10ａ			9		

収穫状況確認日は収穫期間中とし、遅くとも収穫最終日とする

栽培管理記録書（中途分）の提出日以降、実施した作業・使用の時期を記載する

実績は確認責任者の受領確認日までに使用した回数の合計を記載する

注　ほ場毎に作成すること。（作業計画、使用予定資材が同一の場合はまとめて作成することも可とする。）

※１　ほ場所在地は地番まで記入し、ほ場番号を記載した「生産ほ場位置図」を添付すること。

※２　作業等名は、「前作収穫終了」「耕起」「は種」「定植」「除草」「病害虫防除」「収穫」等、必要な作業等名を記入する。

※３　現地確認、作業時期及び使用時期は、今後の予定は「年月旬」で記入し、実績は「年月日」で記入すること。

栽培管理記録書に記載した収穫期間を記入する

出荷記録書（様式第５号）

出荷記録書（令和〇〇年 9 月 12 日～令和〇〇年 9 月 20 日収穫分）

品　目	いね	ほ場番号	〇〇市〇〇〇〇
品種名	コシヒカリ	面積	100.20　a
作型等	―	収穫量　kg	5000　kg

出荷記録書の内容を確認責任者に確認してもらい、日付を記入、記名する

生産者名		栽培責任者名		確認責任者名		受領確認欄
住所	〇〇市〇〇〇	住所	〇〇市●●●	住所	〇〇市■■■	令和〇〇年 10 月 10
氏名	〇〇〇〇	氏名	●●●●	氏名	■■■■	確認責任者氏名
TEL	000-000-0000	TEL	●●●-●●●-●●●●	TEL	■■■-■■■-■■■■	■■■■

出荷年月日	出荷先 ※1	規格等 (A)※2	数量 (B)	出荷量計 (C)=(A)×(B)
R〇〇.9.20	とう精施設		1、750	1、750
R〇〇.9.30	とう精施設		1、000	1、000
R〇〇.10.10	とう精施設		750	750
R〇〇.9.25	個別出荷	30kg 袋	30	900
	自家消費		600	
合計				4、400

（注）記録は出荷ごとすべてに記載することを基本とするが、取引の日数や相手方が非常に多い場合は
　出荷日を「〇月〇日～〇月〇日」、出荷先を「個別消費者〇名」などまとめて記載することも可とする。
（※１）精米で流通させる場合は、出荷先は「とう精施設」としその量を記載する。
（※２）規格等欄には、「10ｋｇ箱」「30ｋｇ袋」「バラ 120ｋｇ」などの出荷単位を記載する。

特別栽培米受払台帳（様式第６号）

特別栽培米受払台帳

とう精施設名		栽培責任者名		精米責任者名		精米確認者名		精米確認欄
住所	○○市□□□□	住所	○○市●●●●	住所	○○市□□□□	住所	○○市▲▲▲▲	令和○○年 11 月 10 日
施設	（株）□□精米所	氏名	●●●●	氏名	□□□□	氏名	▲▲▲▲	精米確認者氏名
TEL	□□□-□□□-□□□□	TEL	●●●－●●●－●●●●	TEL	□□□－□□□－□□□□	TEL	▲▲▲－▲▲▲－▲▲▲▲	▲▲▲▲

施設への受入		とう精作業								
玄米受入年月日	玄米受入数量 kg ※1	とう精作業日	とう精玄米量(A) kg	精米生産量(B) kg	歩留(%)（B/A）	出荷日	出荷先	規格等 (C) ※3	数量 (D)	出荷量 (C×D) kg
○○.9.20	1、750									
		R○○.9.25	500	445	89	R○○.9.25	（株）○○食品	2kg 5kg	20 81	445
		R○○.9.28	800	712	89	R○○.9.28	〃	2kg 5kg	31 130	712
○○.9.30	1、000									
		R○○.10.2	500	445	89	R○○.10.2	（株）▲▲スーパー	2kg 5kg	40 73	445
		R○○.10.5	500	445	89	R○○.10.5	〃	2kg 5kg	60 65	445
○○.10.10	750									
		R○○.10.15	200	178	89	R○○.10.15	▲○米穀	2kg 5kg	39 20	178
		R○○.10.30	600	534	89	R○○.10.30	〃	2kg 5kg	17 100	534
		R○○.11.9	400	356	89	R○○.11.9	〃	2kg 5kg	28 60	356
合計	3、500		3、500	3、115						3、115

出荷記録書（玄米出荷量）と同じであること

（※１）　玄米受入数量は、様式第５号において「とう精施設」へ出荷した量と一致させる。
（※２）　出荷記録は出荷ごとすべてに記載することを基本とするが、取引の日数や相手方が非常に多い場合は出荷日を「○月○日～○月○日」、出荷先を「個別消費者○名」などまとめて記載することも可とする。
（※３）規格等欄には、「2kg 袋」「10kg 袋」「バラ 120ｋｇ」等の出荷単位を記載する。